

令和4年度前期 敦賀市立看護大学 単位互換開放科目

(1) 一般教養科目【 12 科目】

授業科目	単位数	曜日	時限	受入人数	備考
環境学	2	月	1	若干名	
教育学	2	月	2	若干名	
臨床心理学	2	月	3	若干名	
生物学	2	隔週 月	4・5	若干名	
健康とスポーツ	1	火	3	若干名	
科学論	2	火	4	若干名	
比較文化論	2	火	5	若干名	
社会学	2	水	2・3	若干名	
経済学	2	木	2	若干名	
言語と表現	2	木	3・4	若干名	
家族社会学	2	金	4・5	若干名	
日本国憲法	2	集中(6月予定)		若干名	

(2) 専門基礎科目【 6 科目】

授業科目	単位数	曜日	時限	受入人数	備考
臨床病態学Ⅱ	2	月	1・2	若干名	
メンタルヘルス	1	隔週 月	4・5	若干名	
保健医療福祉行政論	2	月	5	若干名	
臨床病態学Ⅰ	2	火	1・2	若干名	
臨床栄養学	1	水	1	若干名	
脳と心の科学	1	集中		若干名	

(3) 看護専門科目【 8 科目】

授業科目	単位数	曜日	時限	受入人数	備考
ターミナル看護	1	水	1・2	若干名	
地域看護学概論	2	水	3	若干名	
看護学概論	2	水	4	若干名	
母子保健学	1	木	1・2	若干名	
産業看護論	1	木	4・5	若干名	
小児看護学概論	1	集中(7月予定)		若干名	
精神看護学概論	1	集中		若干名	
看護マネジメント論	1	集中(4月予定)		若干名	

※開講時間は予定です。

※大学の授業開始日は、4月7日(木)です。

※授業によっては教科書、参考書等の費用が必要となる場合があります。

※正規学生の履修の人数によっては開講されない場合があります。

単位互換開放科目講義概要

詳細は本学ホームページ「シラバス」を参照してください

授業科目の名称	講義等の内容
科学論	<p>論理的な思考と科学的な思考の修得を目的とする。 第Ⅰ部では文章に表現された論理を分析することで論理的思考を修得する。そのため、例題を解いて考えることも行う。第Ⅱ部では自然と社会に関して科学的思考を鍛錬するために、いくつかの事例を取り上げて考察を加える。</p>
社会学	<p>社会学の基本的なものの見方（パースペクティブ）や考え方を理解し、身に付けることを目指す。また、相対化と社会的な文脈への位置づけという社会学の視点・思考が、受講者の今後のそれぞれの現場における処し方に関して、触媒のような働きにつながることを目指す。 社会学の基本的な視座である相対化、社会的な文脈への位置づけについて理解することを通して、多角的・総合的にものごとを捉えることのできる視点の獲得を目指す。</p>
経済学	<p>経済に関して理解を深めることを目的とする。 現代の経済の仕組みを生み出した産業革命以降の経済の歴史、特に第二次大戦後の高度経済成長以降の歴史を知ること、現代の経済社会に対する理解を深める。講義では経済に関する時事問題を取り上げ簡単な解説も行う。</p>
生物学	<p>生物の基本を学習する。ヒトは60兆個の細胞から構成されている。細胞が集合した組織（例えば、脳や皮膚）は、組織ごとに、決められた働きをする。ヒトは有性生殖により子孫の個体を作り、ヒト（親）の持つ形質は子供に遺伝する。 細胞の構造、有性生殖、遺伝、遺伝子の本体、組織の働き、個体の恒常性の維持、刺激受容と応答の順に、生物の基本を学習する。次に、遺伝情報とその発現、遺伝子産物としての酵素・タンパク質、酵素の働きによる代謝を学習する。この学習によって、遺伝子が酵素の設計図で、酵素が代謝パスウェイを円滑に進める働きをしていることが理解できる。</p>
日本国憲法	<p>日常生活で体験する身近な問題を取り上げることによって、現代社会における法の生きた現実の機能を学ぶとともに、憲法の中心的役割とされる、我々国民の権利と自由を守る基本的概念を理解する。 法の精神、憲法の内容について学んだ後、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重を中心に、背景にある目的を踏まえて講義を進める。これまでに中学校や高校等で学んだ「日本国憲法」に対する考え方をより深め、条文に込められた意図を理解できるようにする。</p>
比較文化論	<p>文化人類学の基本的な概念を理解するとともに、異なる文化と自らの文化を比較する枠組みについて理解し、自らの生きる文化について、相対化する視角を獲得する。 本授業では、人間の文化的側面を探究する。儀礼や信仰のみならず、経済活動や近代科学、医療行為なども、広く文化・社会の産物として視野に含め、現代世界における多様な文化的価値を比較文化的に眺める視点や論点を学習する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
環境学	<p>人の生活は常に外環境との密接なかかわりの中で営まれている。すなわち、環境は生命の維持に欠かせないものであり、また、時として健康破綻招く引き金にもなる。</p> <p>本授業は、人と環境・生態系との相互作用として生命が維持されることを理解し、環境保全の意義について理解を深めることを目的とする。</p> <p>地球の構成を物理的、化学的、生物学的に解説し、我々が住む環境の概要を理解する。また、人口問題、食糧問題、環境汚染の現状を示し、それらの問題を理解するために必要な知識や技術を解説する。</p>
教育学	<p>ヒトが人になるためには教育が必要だと言われる。こうして私たちが教育を受けてきたわけだが、私たちがこれまで学んできたことは、そもそも一体何だったのかを考える。</p> <p>この授業では、有史以来の人間の教育の様々なあり方を通観することにより、人間に対する理解および教育によって形成された自己に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>講義を主とするが、意見を書いてもらう機会をできる限り設ける。</p>
臨床心理学	<p>臨床心理学の実践の場には、医療、教育、労働・産業、福祉を始めさまざまな領域がある。それぞれの領域・分野の中で心理臨床の活動内容や援助方法を実践・研究する基礎を学び、看護学への自分なりのビジョンやプランを形成する。</p> <p>心理学と臨床心理学の成果や用いる研究法を具体的に学び心理臨床の領域を概観する。今日の対人関係や集団の中での人間関係で発生する心理臨床的な現代の諸問題に気づき、それを解決する臨床心理学的な方法・技法・考え方の特徴を、演習も含めて学修する。</p>
言語と表現	<p>作家達の様々な日記や手紙形式の作品を読み、それぞれの叙述の特性を通して、人間の描かれ方を理解する。</p> <p>言葉は、いわゆる〈情報伝達的手段〉に終始するわけではなく、人の心のありかたにたえず連動して発現される「なまもの」であることを知る。読み取った内容や与えられた課題に即し、自分の考えが他の人に理解されるよう、適切に言葉で説明・表現することを目的とする。</p> <p>授業では、日記や手紙は文学の源流の一つでもあり、それらの代表的な作家達の著述を通して、こうした文章の特性・多面性について理解を深める。なお、授業に関わる課題に記述解答してもらうことで多様な読みの可能性を紹介し、これを共有しながら講義を進める。</p>
家族社会学	<p>私たちが生活する基礎的な集団である家族について、客観的、科学的に考える力を養い、家族に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>家族はどの文化でもどの時代にも大切な生活の場であるが、その内容や社会的な意味は変わってきている。その変化の様子と今かかえている問題と今後どうなるのかについて、いくつかの側面から考える。授業では、家族の中の女性の位置、仕事、結婚、家事分担、子育て、親の介護などをとりあげる。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
健康とスポーツ	<p>健康・体力に対する認識を深め、運動・スポーツの健康的意義を理解することにより、生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践する能力や態度を高めるとともに、健康やスポーツ問題に関する情報の分析能力を身につける。</p> <p>個人および社会における健康問題を認識するとともに、生涯にわたって運動・スポーツに親しむために必要な科学的知識を学習する。また、生涯スポーツ（スポーツの生活化）の必要性と具体的方策などについても理論的に学習する。</p>
臨床栄養学	<p>生体が発育し成長して生命を維持し、健全な日常生活を営むためには、食物を体外から摂取しなければならない。健常時のみならず疾患時においても栄養や栄養素に関する正しい知識がなければ、継続的な生命活動を営むことは難しい。そこで、本授業の目的は、生理学および生化学的な視点から栄養学として必要な基礎的知識を学習し身につける。</p> <p>食に関する資料や情報をもとに、食べることの意味を正しく理解し、食物摂取から消化・吸収・代謝・排泄等の現象を関連づけて理解する。また、過食（エネルギー摂取過剰）に代表される食習慣が引き起こす生活習慣病や低栄養による病気からの回復の遅延等の問題を取り上げ、栄養学的にみた「人間」としての生活の質(QOL)の維持のための方法論について学習する。</p>
臨床病態学 I	<p>疾病を予防し、疾病の回復を支援する看護を展開するために、疾病の成り立ちや回復の過程、回復促進に関して臨床で必要不可欠な基礎的でしかも実践的な病態の知識を習得する。</p> <p>疾患本態の成り立ちを症状、診断、予防、治療、予後といった視点から、臨床病態学の基礎的知識を学ぶ。また、患者の異常な状態をアセスメントし、医学・看護それぞれの立場から適切に対処できるための方法論を学習する。</p> <p>病態の機序を理解しているからこそ可能になる思考過程がある。病気の予防・治療・回復における看護を行うにあたり、是非とも理解しておくべき各疾病の基本的機序を学習する。</p> <p>I では、血液と体液、筋・骨格系、脳・神経系、感覚器、内分泌系などを取り扱う。</p>
臨床病態学 II	<p>疾病を予防し、疾病の回復を支援する看護を展開するために、疾病の成り立ちや回復の過程、回復促進に関して臨床で必要不可欠な基礎的でしかも実践的な病態の知識を習得する。</p> <p>疾患本態の成り立ちを症状、診断、予防、治療、予後といった視点から、臨床病態学の基礎的知識を学ぶ。また、患者の異常な状態をアセスメントし、医学・看護それぞれの立場から適切に対処できるための方法論を学習する。</p> <p>II では、呼吸器、循環器、消化器、泌尿器、生殖器などを取り扱う。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
保健医療福祉行政論	<p>保健医療福祉行政(公衆衛生行政)が目指してきた理念、目的、役割を日本社会の歴史的变化を背景に理解するとともに、地域社会における保健医療福祉行政の制度や施策を活用できる能力を養う。</p> <p>我が国における社会・経済の変化と暮らしを背景に、保健医療福祉に関する行政・財政の仕組み、制度についての基本的知識を学ぶ。また、人々の生活、健康問題、疾病構造の変化等に対応した、社会保障制度や保健医療福祉行政などの実際について学習する。特に、地方からの視点に注目しながら、我が国全体や諸外国の実状を理解する。</p>
脳と心の科学	<p>疾病の発症機構および治療、日常生活との関係等を学ぶための基礎知識として、人間の脳と心の機能について理解した上で、主な精神疾患とその治療に関する基礎的知識を修得することを目的とする。</p> <p>本講義では脳の形態・機能について教授するとともに、代表的な精神疾患の病態とその治療について具体的に教授し、基礎的知識の修得を目指す。</p>
メンタルヘルス	<p>人間の健康や幸福にメンタルヘルス(心の健康)が重要な要因であることを理解し、学生自身がそれを維持増進するための具体的な方法を学ぶ。</p> <p>メンタルヘルスとは何か、また何がそれを脅かすのかなどメンタルヘルスの定義や背景について教授する。その上で、ストレスマネジメントや他者との対話の方法などを具体的に学び、修得することを目指す。</p>
看護学概論	<p>看護実践における基本的概念である「人間」「看護」「健康」「環境」を理解するとともに、看護の対象である人について洞察を深め、看護のイメージを形成することを目的とする。</p> <p>看護実践における基本的概念である「人間」「看護」「健康」「環境」および、近代看護の創始者であるナイチンゲールの看護論、看護理論、倫理、関係法規、看護の歴史の変遷や保健・医療・福祉システム、看護教育制度について教授する。</p>
小児看護学概論	<p>乳児期から思春期までの子どもの成長・発達、および家族の発達に関する知識と基礎理論を理解する。また、子どもの成長・発達に応じた育児支援や健康生活やライフスキルの育成について学修し、小児看護の役割、責務および子どもの人権について理解を深める。</p> <p>授業の前半で、小児看護の役割、小児看護の対象者である子どもと家族について、小児を理解するうえで必要な理論を教授する。一部グループワークを取り入れながら、子どもの成長・発達および日常生活の援助の在り方を時間軸に沿って系統的に学修する。これらの学習を踏まえて、子どもの人権、小児医療における子どもの権利について理解を深める。</p>
母子保健学	<p>我が国における母子保健の歴史の変遷や母子保健統計指標による実態、ならびに母子保健行政や施策とのかかわりについて理解し、母子保健の今日的課題について理解を深める。</p> <p>母子保健の歴史的な変遷と母子保健統計、ならびに母子保健行政や施策の現状と課題について学ぶ。女性のライフステージとリプロダクティブヘルス/ライツの視点から母子保健について考察する。また、子どものヘルスプロモーションとセーフティープロモーションの概要について学び、児童虐待など小児の視点での課題を考察する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
精神看護学概論	<p>精神看護学の対象となる人を全人間的に理解するために重要な概念や理論を学び、看護職が果たすべき役割とその専門職的姿勢について理解する。</p> <p>この授業では心の健康とそれを取り巻く社会の歴史・現状、対象者を全人間的に理解するために重要な概念や理論について教授する。また、精神障がいを持つ人の体験の語りを聴いて学ぶとともに、看護職が果たすべき役割と専門職的姿勢を理解する。</p>
ターミナル看護	<p>緩和ケアの概念を理解するとともに 終末期患者の特徴とターミナルケアの目指すもの、終末期患者への看護を理解することを目的とする。</p> <p>入院、在宅など療養の場に限らず緩和ケアを提供するうえで必要な基本的知識と技術を教授する。残された時間が限られた人の全人的苦痛、症状コントロール、家族の心理、倫理的課題など患者および家族への看護を探求し、自らの死生観も養う。</p>
地域看護学概論	<p>社会環境の変遷に伴う人々の暮らしや健康状態の変化を踏まえ、地域看護の意義と活動のあり方について考える。また、国際保健の動向について学ぶ。</p>
産業看護論	<p>産業保健の理念や目的を理解する。労働や労働環境が健康に与える影響、産業保健の推進体制と推進活動について基礎的な知識を習得する。産業保健における看護職の役割と職務を理解する。</p> <p>労働に起因する健康課題を理解し、働く人々が健全な労働生活を送ること、かつ企業が安全と健康に関して好ましい風土が醸成できるように支援するための基礎的な知識について教授する。また、今日の労働者を取り巻く社会・経済情勢を踏まえ、健康課題やその対策について検討し、産業看護職の役割と職務を理解し、そのあり方について考察できるよう展開する。</p>
看護マネジメント論	<p>看護マネジメントは対象の多様なニーズに対応すると共に安心・安全な医療と看護が受けられるよう質の高いサービスを提供するための組織活動である。個々人が所属する看護組織内で、看護組織として目標とそれぞれの果たすべき役割と組織の機能の関係等について学修する。</p> <p>看護職者が活動する組織を基盤にした看護管理の体系および概要を理解する。さらに、新しい時代に対応した質の高い医療・看護サービスを提供するための方策を看護マネジメントの観点から考える。</p>